

粉末を土壌改良材として利用も

全国各地で農業機械の

展示会が開催されるが、必ずといっていいほど展示されるのが樹木用粉碎機だ。せん定した枝などを細かく砕くことができ、粉碎した木片は現場に散布することも可能だ。雑草を抑制することもできるのも、一石二鳥だ。このため造園業者などにとっては必須の機械となっている。

さらに、樹木粉碎機への関心が高まっている理由の一つが竹の処理に大きな力を発揮することだ。放置したままの竹林が社会問題となっており、手入れのできなくなった竹林は隣接する農地まですくに侵出してくる。竹は非常に硬く切断するにも手間がかかり腐

硬い竹も粉碎「ドラゴン」



りにくい。処理には大きな労力がかかる。

この竹を細かく粉碎することができなのが、ケルカルの樹木粉碎機「ドラゴン」だ。写真。粉碎した竹

粉末を土壌改良材として再利用する動きも始まっている。金沢大学の西川潮・准教授はこのドラゴンで粉碎した竹粉を水田に散布することで、どんな効果があるのかを確かめる実験を続けている。

大学のある金沢市でも

放置竹林が目立つようになっ

ている。太い孟宗

(もうそう)竹は直径が

10センチ以上にもなり、伐採

にはチェーンソーを使って

いる。竹の粉碎に使って

いるのがドラゴン。竹葉

も粉碎できる。ここで得

られた各種竹粉を大学構

内の実証田に散布し研究

している。邪魔物であっ

た竹を竹粉にすることで

農業分野において何らか

の効果があることを立証

できれば放置竹林解消に

役立つと期待している。

ドラゴンは8馬力、10

馬力、13馬力の各機種が

あるが、そのうち最大粉

砕可能径13.5センチのKD

C-1301の価格は1

26万円(税別)。

(農機ジャーナリスト

森 伸晴)

◇次回は7月26日付

Pick up! 農機